

平成 30 年 5 月 27 日実施 2 級 F P 技能検定試験 (学科、実技：資産設計提案業務) について

<学科試験>

■出題傾向

依然として過去の類似問題が多くを占めているものの、科目によっては一部に従来の傾向と異なる問題や切り口を変えた問題、目新しい論点の問題が見受けられた。

■問題のレベル

簡易な問題が見られる一方で、やや詳細な内容の選択肢を含むものも散見され、全般的には、従前の試験と比べて同じ程度であった。

■特記事項

問題 10、問題 40 と 2 問出題されている決算書については、貸借対照表や損益計算書に関する正確な知識が求められる問題であった。問題 29 では「ジュニア N I S A」が初めて出題された。問題 57「財産の評価」や問題 58「宅地および宅地の上に存する権利の相続税における評価」等は、正解を導く上でやや詳細な知識を要するものであった（特に『相続・事業承継』の問題は、前回に続き、総じて難化している）。

<実技試験>

■出題傾向

平成 30 年 1 月試験と比較して、『金融資産運用』からの出題が減少（前回 7 問→今回 4 問）し、『リスク管理』からの出題が増加（前回 5 問→今回 7 問）している。毎回のように出題される定番問題に変化は見られないが、これまでの試験とは違う切り口の問題も散見された。

■問題のレベル

個々に難しい問題があるが、基本問題および定番問題も多いため、全体として問題のレベルは変わらない。

■特記事項

問 6（金投資）や問 30（任意に加入する団体定期保険）、問 34（小規模企業共済）などのように、近年は問われることのなかった項目からの出題も多かった。

<総括>

学科試験については、『ライフプランニングと資金計画』や『金融資産運用』、『不動産』で比較的平易な問題が多かった一方で、『相続・事業承継』は、ここ数回の試験と同様、難しい問題が目立った。実技試験については、算式の明示がなくなった問題（問 36）や、計算上の注意を要する問題（問 38）などがあり、【第 10 問】で多くの時間を使ってしまった受検生も多かったのではないだろうか。

ただし、今回の試験も、過去問をしっかりと押さえておけば、学科試験、実技試験ともに、6 割以上の正解は可能であったと思われる。

※このシートは、平成 30 年 5 月 27 日に実施された試験を、山田コンサルティンググループが独自に分析し総括したものです。あらかじめご了承ください。